

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：34415

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02026

研究課題名（和文）ミュージアムと高齢者の互恵的関係に関する研究

研究課題名（英文）Study on reciprocal relationship between museums and the elderly

研究代表者

瀧端 真理子（TAKIBATA, Mariko）

追手門学院大学・心理学部・教授

研究者番号：70330165

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、博物館が高齢者に何を提供できるか、高齢者は博物館をいかに支えることができるかを、「博物館と高齢者の互恵的関係」という視点から探究した。博物館は市民の調査・研究の拠点として、また市民の創造性を刺激する活動を提供することで高齢者の居場所となりうる。一方、高齢者は資料の収集・保存のパートナーとして、また博物館への寄贈・寄附を通じて博物館を支えうる。これらの互恵的関係を構築している先進事例の参与観察や実態調査、高齢者を対象とした行動観察や活動実践を通じて、博物館側が直面している課題及び留意すべき点を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国・自治体の財政難による博物館への税配分の減少、コロナ禍による休館と入館者減により、日本の博物館経営は厳しい状況に置かれている。本研究では英米の博物館における寄附金獲得戦略に関する調査結果を公表することで、もはや税金と入館料収入だけでは立ち行かなくなっている日本の博物館関係者に、博物館経営資源の多元化に資する情報を提供した。また、2019年ICOM京都大会NATHISTでは大阪市立自然史博物館を会場に、博物館への「高齢者の参加と貢献」に関する発表の場を設けたほか、ICOMを中心とする国際会議での口頭発表9本をはじめとする英語での研究成果の発信に努めた。

研究成果の概要（英文）：This study explored what museums can offer to the elderly and how the elderly can support museums from the perspective of a mutually beneficial relationship between museums and the elderly. Museums can be a place for the elderly by serving as a center for citizens' research and investigation and by providing activities that stimulate citizens' creativity. On the other hand, the elderly can support the museum as partners in the collection and preservation of materials, and through donations and contributions to the museum. Through observation of the activities of the elderly and practice of activities targeting the elderly, we examined the issues faced by museums and points to keep in mind.

研究分野：博物館学

キーワード：ミュージアム 高齢者 博物館 寄附 互恵的関係 居場所 博物館経営論 資金調達

## 1. 研究開始当初の背景

2015年10月現在の日本の高齢化率は26.7%であり、2035年には、3人に1人が高齢者になると予想されている。ミュージアムへの人口高齢化の影響を論じた理論的先行研究には、英国のBenitezの研究がある。Benitezによれば、エイジングは社会の中で孤立をもたらす強力な一要因だが、高齢者の文化的ニーズを対象とする研究や公共政策には進展が見られないという。一方でICOM(国際博物館会議)の定義に照らして、ミュージアムは「社会とその発展に奉仕する機関」であり、文化的多様性と社会的包摂を促進することで社会に恩恵をもたらすと認識されている。高齢者がミュージアムを訪れ、活動に参加することは、高齢者の「生活の質」の核心である社会的相互作用を高めるであろうこと、過去20年間で「ミュージアム、職員、コレクション」と「来館者」の関係は、前者からの一方通行ではなく双方向の関係を目指すように変化し、ミュージアムは、来館者のニーズと動機を視野に入れた来館者志向型機関になりつつあると指摘する(Benitez 2013)。

日本の高齢者の認知症有病率は15%と推定され、推定有病者数は2012年時点で462万人と推定されている。アルツハイマー型認知症の予防には、知的な生活習慣が関わるとされており、本・新聞を読む等と並んで「博物館に行く」頻度の高さも発症の危険度を減少させる、とする研究もある(Wilsonほか2002)。

本研究代表者は、「入館料問題を切り口とする博物館の公共性に関する研究」を行ってきたことから、米国では(1)ミネアポリス美術館及びウォーカー・アート・センターが地域のアルツハイマー協会と連携して、認知症患者とその友人/ケアパーソンのためのツアーを行っていること、(2)ミネソタ科学博物館及びカーネギー科学センターが平日にシニア歓迎日を設定し、コーヒーサービス等を含めた見学プログラムを割引料金で提案し、シニア層をターゲットに据えた積極的広報戦略を打ち出していることを発見した。これらの館での現地調査では、物理的に高齢者を始めとするあらゆる人々に居心地/使い勝手のよい空間になっていることにまず気付いた。(3)ミネソタ科学博物館では、ロビーのソファ正面に寄附者リストが掲示され、オムニマックス上映直前には遺贈を呼びかける字幕が投影されることに気付いた。また、カーネギー科学センターでは、ロビーにボランティア募集の大きな垂れ幕を下げ、「ティーンから退職者まで」と多様性を強調し、シニアの写真も多用している。ミネソタ科学博物館では外部のボランティア・マッチのサイトを利用して、ボランティアの種類ごとに必要なスキル(STEMなど)適齢(55+など)を明示して募集している。

以上の点から、特に物理面での(1)ミュージアムにおける高齢者支援、(2)高齢者をターゲットとした集客戦略、(3)高齢者によるミュージアム支援(寄附、遺贈、ボランティア、専門的知識の提供)には密接な循環関係があると考えに至った。一方、(1)の認知症患者とその友人・介護者のためのツアーに関しては、関連文献を収集した結果、アメリカでの認知症患者への美術館プログラムの開始時期は2006年頃と推定され、ニューヨーク近代美術館(MoMA)が開始したMeet Me at MoMAを始め、複数の先駆的プログラムが存在すること、2007、2009、2011年にMetLife財団がMoMAのRosenbergらのチームに助成金を与え、他機関でも採用可能なArts-and-dementia programの開発と世界中への普及を支援したことが判明した。

## 2. 研究の目的

本研究は、ミュージアムと高齢者の相互作用、特に互恵的な関係に注目して、少子高齢化社会におけるミュージアムの持続的発展のあり方を探求することを目的とした。具体的には、(1)ミュージアムにおける高齢者支援(福祉的ニーズへの対応、物理的に居心地のよい場所の提供、居場所機能等)、(2)高齢者をターゲットとした集客戦略、(3)高齢者によるミュージアム支援(資料の寄附、寄附、専門的知識の提供、Members、ボランティア等)を調査し、(1)(2)(3)の循環関係を明らかにすることで、従来、福祉的サービスの受け手として捉えられがちであった高齢者を、博物館を支える重要なパートナーと位置づけ(双方向型サービス)高齢社会とそれに伴う財政難に直面している日本の地域博物館の維持存続のための方策を提案することを目的とした。

## 3. 研究の方法

先行研究の収集と把握、日本国内での地域型認知症予防プログラムの把握、国内外のミュージアムの物理的環境実地調査、居場所機能を持つミュージアムの探索、米国を中心とするブランド・ギビング制度の把握、米国を中心とするボランティア募集方法の調査、専門知識・技術を持つ高齢者の貢献事例調査、資料の寄附受け入れ・整理に関する先進的事例調査、英・米で認知症患者への対応を行っているミュージアムの実地調査、図書館分野で行われている高齢者対応の調査、高齢者をターゲットとした集客戦略の探索、調査結果の情報集積サイトでの公開。以上の方法を本研究の申請時に構想したが、  
、  
、  
は十分な調査及び情報発信ができなかった。

## 4. 研究成果

## (1)ミュージアムによる高齢者支援

### ・ 国外先行事例調査

国外調査は、瀧端、大原、佐久間、谷合、小南が分担して行った。以下、その概要を示す。

2017年度には、アメリカ博物館同盟2017年年次総会へ参加し情報収集を行った。また、ブリティッシュ・カウンシル(東京)で、英国での高齢者を対象とした取り組みについて情報収集を行った。さらに、北欧のミュージアムにおける認知症高齢者に向けたプログラムの展開について、オーフストとストックホルムでヒアリングを行った。英国のリヴァプールで高齢者対象の活動に参加し、また米国では、ニューヨーク近代美術館及びユダヤ博物館におけるメモリーロス高齢者対応事業の参与観察を行ったほか、クーパー・ヒューイット・スミソニアン・デザインミュージアムで開催されていたACCESS+ABILITY展を視察した。

2018年度には、ICOM NATHISTへ参加し、インクルージョンへの取り組み状況の調査、またイスラエル(スタインハルト自然史博物館等)での高齢者利用状況や遺跡サイトでのユニバーサル化に関する調査、博物館での高齢者の参加と高齢者への対応状況を視察した。ICOM NATHISTへの参加の成果として2019年ICOM京都大会NATHISTでは、高齢者へのアプローチ、市民活動との協働についてもプログラム化することとなった。また、フランスでの高齢者への対応状況の調査、ベルギーのワロン地方セル村での高齢者の活動事例の調査、ノルウェーとスウェーデン(スカンセン)での主に認知症を対象とした高齢者向けプログラムの視察、米国シカゴではボランティアの活動状況及び寄附者に対する顕彰等についての視察を行なった。

2019年度には、米国サンディエゴ動物園のバリアフリー及び寄附による園内設備の整備状況を視察した。また、公開研究会において、中野より、英国ナショナルグランズセンターによる「認知症高齢者と介護者のプロジェクト”Creative Age”」についての報告を受けた。さらに、高齢者に配慮した施設の先進事例として2020年3月にスウェーデン、フィンランドで現地調査を行う予定であったが、COVID-19の影響により渡航を延期せざるを得なくなった。この調査は2022年にスウェーデンのヤミトリ博物館他で現地調査を行ったほか、ブリットマリー・ボルグストロム氏から情報提供いただくことで完結した。

### ・ 国内先行事例調査と実践・調査報告

2010～2013年に水戸芸術館現代美術センターでシニア対象企画を担当し、また「美術待合室」を主宰する中野による先行事例調査結果を共有した。国内博物館での代表的事例としては、北名古屋市歴史民俗資料館(前・師勝町歴史民俗資料館、1997年より昭和日常博物館と称呼)による回想法の実践が挙げられる。美術館では、九州産業大学美術館、松本市美術館、茅野市民館/茅野市美術館、森美術館、東京都現代美術館、福岡市美術館での先行事例の存在を確認した。

大阪市立自然史博物館における市民参加については、和田が同館の外来研究員制度を紹介、外来研究員への登録者は年々増加し、所属を持たない研究者をサポートする上で効果的な制度となっていること、その中で、リタイアした研究者が一定のまとまりとなり、博物館活動の展開に互恵的な影響をもたらしつつあることを報告した。また石田が同館で行われている大山桂文庫の目録作成、データベース化、配架作業をボランティアの手により進めている事例を報告した。またこの整理作業への参加者から体験談を報告していただく機会を設けた。同館で開催された2019年ICOM京都大会NATHISTでの”New Partnership”セッションでは、瀧端が同館での市民参加の歴史を口頭発表した。

### ・ 図書館、アーカイブズからの知見

2017年には日本社会教育学会第64回研究大会でラウンドテーブル「研究の記録管理と資料保存」を企画実施し、この内容を踏まえ、平野は立教大学共生社会研究センターで所蔵する宇井純と鶴見良行のアーカイブズを事例として検討し、研究者個人のアーカイブズがしばしば不完全なまとまりになりがちなこと、複数の時点で複数の人々による様々な評価・選別にさらされがちなこと、研究者の経歴または専門分野と関連性のあるアーカイブズ(機関)で保存されるのが望ましいこと、また、保存のためには活用の幅を広げていく必要があることを指摘した。また谷合は、「京都大学研究資源アーカイブ」の紹介を通じて、研究者が生み出した記録を本人の引退後にどのように保存・管理・活用すべきかを検討し、大学内のMLA連携の成果であり、かつ現役研究者への負担もまた課題として挙げられることを指摘した。

佐藤は2018年度に「図書館における注視行動と加齢」に関する調査を行い、その結果として、加齢は注視域の広さに影響を与えるが、注視対象物の傾向は大きく変わらず、習慣・行動様式が探索の成否に影響することが示唆された。また2019年度の調査からは、(1)視線追尾装置を用いた図書館書架閲覧実験より、高齢者は若年者に比べて視野範囲内での視点分布が中央部に固まるなど、視界にあるものの中でも注目する場所が偏ることが確認された。(2)図書館貸出データの分析より、高齢者とそれ以外では曜日に伴う利用行動が異なり、一般の利用が集中する日曜日や祝日を比較的、避けようとする傾向が確認された。(3)VR上の図書館を用いた実験より、加齢に伴いVRへの慣れが遅くなり、実験タスクの達成が困難になることが確認された。

### ・ 建築学的視点からの物理的環境調査

大原は、国内外の博物館において様々な高齢者配慮のための環境整備事例を収集し、休憩用に複数の椅子を配備している美術館において、来館者の椅子の使用実態と疲労状況などを調査し

た。また COVID-19 の影響により海外での現地調査が不可能になったため、国内における回想法の活動空間の実態を把握するために、横浜市内の学校博物館において回想法を試験的に実施して考察を行った。

・博物館が高齢化社会に対応するために必要な要件

佐久間は、博物館のもつコミュニケーションの場としての福祉的な役割は大きな発展の可能性をもつが、同時に新たな投資も必要とすること、高齢化によって博物館に寄贈される様々な資料は博物館の財産ともなるが、同時に収蔵余力を圧迫もしており、機能強化が必要なこと、新たな機能を積極的に取り込むためには新たな条件付与（人員・設備・予算）が必要になることを指摘した。また、資料中心から利用者中心へと博物館活動がシフトする世界的な状況と軌を一にして、博物館スタッフに必要なスキル領域が拡大していることから、必要とされる専門職像を検討し、高齢者との互恵的関係の観点からはデジタルアーキビスト、ソーシャルワーカー、マネジメント人材等が必要であることを論じた。

・ COVID-19 が博物館コミュニティに与えた影響

佐久間・和田は、COVID-19 による、大阪市立自然史博物館周辺のミュージアムコミュニティへの影響を、年代別に来館者、友の会、YouTube 利用者についてそれぞれ分析した。閉館や観覧会などのリアルなイベントの減少により、博物館との接触タイミングが減少しているために来館者総数や友の会新規入会などの指標は低下しているが、一日あたりの来館者数や友の会退会率などからは各年代とも大幅な悪化は見られていない。YouTube 利用者層はシニア世代も多く、年齢による重大なデジタルデバイドは確認できなかった。今後は、デジタルでの博物館との接触から来館や友の会への入会など、各コミュニティ間での流動を促す努力が必要であることを論じた。

(2)高齢者によるミュージアム支援

・米国のミュージアムにおける寄附金募集の調査

2018 年にはシカゴ所在 4 館園(リンカーンパーク動物園、リンカーンパーク植物園、シカゴ歴史博物館、シカゴ美術館) の公式 Website に掲載されている寄附募集方法を網羅的に調査した。その結果 ターゲットを絞らず広く一般に呼びかける単発的な、またはキャンペーン型の寄附、Members と寄附額に重きを置いた Members の発展系、ブランド・ギビング(計画的遺贈)、支援分野を明確にしてグループとして館への支援を行うもの、企業を対象とした寄附メニュー、の 5 つに大別できることを指摘した。

2019 年にはシカゴ所在 5 館(シカゴ現代美術館、フィールド博物館、科学産業博物館、アドラープラネタリウム、シェッド水族館)を対象に同様の調査を行った。この 5 館は Membership 制度と重複させる形で上級レベルの会員をドナークラブ等に組織している。ドナーグループが資金調達の大型イベントを開催する例や、新しい寄附者を開拓する役割を担う例も確認できた。高額寄附者が館の運営や意思決定に関与しているのか否か、またブランド・ギビングや企業寄附と税制の関係を理解する必要性を指摘した。

2020 年にはミルウォーキー所在 6 館園(ハーレー・ダビッドソン博物館、ミルウォーキー美術館、ディスカバリーワールド、ミルウォーキー公立博物館、ミッチェルパーク植物園、パブスト邸)を対象に同様の調査を行った。この中ではミルウォーキー美術館が最も多様かつ詳細な寄附メニューを発信しており、特に Membership を前提とする分野別「支援グループ」と、ブランド・ギビングにおいて顕著であり、「支援グループ」は寄附を通じて館のコレクション購入にも影響を与えていること、また、ディスカバリーワールドの Access Fund のように、経済的に来館困難な子どもたちへのアクセス保障を主眼とした寄附募集が行われていることが分かった。

・英国のミュージアムにおける寄附金募集の調査

2021 年には、ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアム、ロンドン動物園及びホイップスネード動物園を運営するロンドン動物学協会の公式 Website に掲載されている寄附募集方法を網羅的に調査し、運営母体の法的位置付け、及びイングランドとウェールズにおけるチャリティとチャリティに対する税制についてまとめた。また、両組織の寄附募集方法を 11 種類に分類した。米国のようなブランド・ギビングの詳細な説明はない代わりに、遺言状作成にまつわるきめ細やかなサービスが記載されているのが特徴である。大規模開発計画に伴う大口寄附、国外の支援組織、子どもにも可能な資金調達まで、幅広い寄附募集がなされていることが確認できた。

2022 年には、アシュモレアン博物館、ナショナル・ギャラリー、ダリッチ・ピクチャー・ギャラリーを対象に同様の調査を行った。Membership ないしフレンズは、米国型の階層構造でなく、入館可能な人数によって会費が異なるだけで特典に差はないが、その上位に様々な特典が会費に応じて付加されていくパトロンないしサークルが位置付けられていること、アシュモレアン博物館とナショナル・ギャラリーでは国際的な支援組織が構築されていること、ダリッチ・ピクチャー・ギャラリーでは遺贈に対する取り組みと企業提携が充実していることが特徴である。また、英国での寄附、遺贈を促進する制度として、ペイロール・ギビング(給料からの天引きによる寄附)や Acceptance in Lieu(相続税に代わる物納)が存在することが分かった。

・求人情報に着目した寄附金募集方法の調査

2023年3月には、ミルウォーキー美術館、リンカーンパーク動物園、シェッド水族館の公式ウェブサイトに掲載されている求人情報のうち、寄附金募集に関連する求人情報を調査・分析した。3館園はいずれもその成立と発展が寄附・寄贈を基盤にしており、直近の年間事業予算も3～4割が寄附で賄われている。求人情報8事例には共通点があり、寄附を集める際に営利企業の営業と類似の手法が取られていることが分かった。潜在的な寄附者は特定、育成、勧誘され、リピーターへの移行が目指され、そのプロセスはデータベースやソフトウェアで管理される。現在の米国型寄附金獲得戦略は、館園利用者の様々な行動履歴を管理し追跡するものであり、こうした手法が館園担当者、潜在的/既存寄附者の双方にとって理想的なものかは検討の余地があることを指摘した。

### (3)研究会の開催、社会への波及効果、今後の展望

#### ・「ミュージアムと高齢者の互恵的関係」公開研究会の開催

大阪市立自然史博物館を会場に、2017年7月に第1回公開研究会を開催し、問題意識の共有を図った。また、2018年3月に第2回公開研究会「高齢化社会と資料保全」を開催し、高齢化の進展に伴う、個人所蔵標本への博物館としての対処方法に関する情報共有や検討を行った。

#### ・文化庁委託事業への協力

みずほリサーチ&テクノロジーズが受託した令和2年度「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」における「博物館の機能強化に関する調査」事業でのヒアリングに協力した。聴取内容は、海外博物館における資金調達の方法とその文化的背景、米国博物館におけるメンバーシップ制度や計画的遺贈を活用した資金調達の取組、国内において博物館への寄附を普及させるための政策の方向性等である。

また、丹青研究所が受託した令和4年度「博物館機能強化推進事業（経営基盤強化に向けた組織改革の促進に関する実証事業）」でのヒアリングに協力した。聴取内容は、博物館における会員制度等の創設・強化に関する海外ミュージアムでの状況や好事例についてである。

#### ・今後の展望

現在の日本の博物館は国・自治体の財政難に伴い、その運営状況は厳しい状況に置かれている。特別展料金の高騰傾向は利用者に負担を強いており、これ以上の値上げはアクセスの保証上、問題がある。その一方で博物館に求められる機能は多様化しており、本研究が扱ってきた高齢者への対応もその一つである。博物館経営の原資をどこに求めるべきかを考えるに当たっては、アングロサクソン諸国だけでなく、公共博物館のルーツを多く持つ大陸ヨーロッパ諸国の諸制度や実態も参照すべきであると考えられる。

高齢者と博物館との互恵的関係を考えるにあたり、英米の寄附金募集戦略を集中的に調査したが、米国での寄附金募集に見られる営業的手法は、寄附者のプライバシー保護の観点から、博物館による寄附金募集が日本においてバラ色の未来だけを描くものでないことを示唆する。こうした課題の探究は、科学研究費基盤研究(C)(代表者：瀧端真理子、課題番号：23K00960)「英米ミュージアムにおけるCOVID-19期の博物館経営」(2023年度～2025年度)において継続していきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計65件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 29件）

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>瀧端真理子                        | 4. 巻<br>2022.12.6 |
| 2. 論文標題<br>高騰する美術館の特別料金。秋の入館料調査が示すもの   | 5. 発行年<br>2022年   |
| 3. 雑誌名<br>ウェブ版美術手帖                     | 6. 最初と最後の頁<br>-   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-         |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>瀧端真理子                        | 4. 巻<br>37          |
| 2. 論文標題<br>求人情報から見る米国ミュージアムの寄附金獲得戦略(1) | 5. 発行年<br>2023年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報              | 6. 最初と最後の頁<br>19-32 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-           |

|                                       |                    |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名<br>中野詩                         | 4. 巻<br>2022年8月1日号 |
| 2. 論文標題<br>ひろがる「芸術と医療福祉」のプラクティス       | 5. 発行年<br>2022年    |
| 3. 雑誌名<br>artscape                    | 6. 最初と最後の頁<br>-    |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-          |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>中野詩                                    | 4. 巻<br>#9      |
| 2. 論文標題<br>社会的処方とアート活動 - イギリス北東部でのフィールドワークを通して - | 5. 発行年<br>2022年 |
| 3. 雑誌名<br>第9回「チア！ゼミ」講演録                          | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                    | 査読の有無<br>無      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）            | 国際共著<br>-       |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                        | 4. 巻<br>291         |
| 2. 論文標題<br>2022年博物館法改正への道程と論点          | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>ヒストリア                        | 6. 最初と最後の頁<br>55-68 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>瀧端真理子                         | 4. 巻<br>34          |
| 2. 論文標題<br>アメリカ合衆国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略(3) | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報               | 6. 最初と最後の頁<br>11-35 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)   | 国際共著<br>-           |

|                                       |                     |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>瀧端真理子                       | 4. 巻<br>35          |
| 2. 論文標題<br>英国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略(1)    | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報             | 6. 最初と最後の頁<br>19-39 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし        | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著<br>-           |

|                                       |                     |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>瀧端真理子                       | 4. 巻<br>36          |
| 2. 論文標題<br>英国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略(2)    | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報             | 6. 最初と最後の頁<br>23-42 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし        | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著<br>-           |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>瀧端真理子                          | 4. 巻<br>-       |
| 2. 論文標題<br>世界のミュージアム入館料事情を探る(スペイン・アメリカ編) | 5. 発行年<br>2020年 |
| 3. 雑誌名<br>ウェブ版美術手帖                       | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>なし            | 査読の有無<br>無      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)    | 国際共著<br>-       |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>和田岳  | 4. 巻<br>41(1)       |
| 2. 論文標題<br>みんなで調べる意義と課題 大阪市立自然史博物館における市民調査の歴史と、普及教育的側面 | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>地域自然史と保全                                     | 6. 最初と最後の頁<br>17-21 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                 | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔・和田岳   | 4. 巻<br>36          |
| 2. 論文標題<br>新型コロナウイルス感染症は博物館コミュニティにどのような影響を与えたか デジタル化の影響とシニア世代への影響について | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報   | 6. 最初と最後の頁<br>15-22 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                                 | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>大原 一興、藤岡 泰寛、江水 是仁                                      | 4. 巻<br>46            |
| 2. 論文標題<br>出づくり文化の継承におけるエコミュージアムの役割の考察                           | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>住総研研究論文集・実践研究報告集                                       | 6. 最初と最後の頁<br>179-188 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>10.20803/jusokenronbunjisens.46.0_179 | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                            | 国際共著<br>-             |



|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>大原 一興、藤岡 泰寛、江水 是仁                                      | 4. 巻<br>46            |
| 2. 論文標題<br>出づくりの村「語り部」による二拠点型居住の伝承 修正版                           | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>住総研研究論文集・実践研究報告集                                       | 6. 最初と最後の頁<br>201-211 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.20803/jusokenronbunjisen.46.0_201 | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                            | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>大原 一興                                  | 4. 巻<br>26            |
| 2. 論文標題<br>エコミュージアムに関する国際会議等における議論の経緯 50 年を振り返って | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>エコミュージアム研究                             | 6. 最初と最後の頁<br>29 - 38 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)            | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>大原一興                         | 4. 巻<br>3月号別冊       |
| 2. 論文標題<br>福祉施設のこれまでとこれから              | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>ディテール 3月号別冊「福祉施設の設計」         | 6. 最初と最後の頁<br>88-88 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>大原一興                            | 4. 巻<br>-           |
| 2. 論文標題<br>国際委員会セッション ICAMT 建築・博物館技術国際委員会 | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>第25回ICOM (国際博物館会議) 京都大会2019報告書  | 6. 最初と最後の頁<br>78-79 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし            | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難    | 国際共著<br>-           |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>増田郁恵・大原一興・藤岡泰寛               | 4. 巻<br>E-1分冊           |
| 2. 論文標題<br>美術館来館者の疲労感と座り空間利用に関する研究     | 5. 発行年<br>2019年         |
| 3. 雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集              | 6. 最初と最後の頁<br>195 - 196 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-               |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>千葉汰一・大原一興・藤岡泰寛                                   | 4. 巻<br>E-1分冊           |
| 2. 論文標題<br>空間条件から見た学校博物館に関する研究 横浜市立小学校における歴史民俗系の活動を事例とした考察 | 5. 発行年<br>2020年         |
| 3. 雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集                                  | 6. 最初と最後の頁<br>1329-1330 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                             | 査読の有無<br>無              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                     | 国際共著<br>-               |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>宮城仁美・大原一興・藤岡泰寛               | 4. 巻<br>E-1分冊         |
| 2. 論文標題<br>公共図書館における地域資料の活用に関する施設計画の研究 | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集              | 6. 最初と最後の頁<br>571-572 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>松田美紗・大原一興・藤岡泰寛                      | 4. 巻<br>E-1分冊         |
| 2. 論文標題<br>旧療養所建築の博物館的活用に関する研究 茅ヶ崎市 南湖院を事例として | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集                     | 6. 最初と最後の頁<br>561-562 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難        | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>青沼駿介・大原一興・藤岡泰寛               | 4. 巻<br>E-1分冊         |
| 2. 論文標題<br>美術館の付加的施設からみた空間構成に関する考察     | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集              | 6. 最初と最後の頁<br>546-547 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>照沼翔大・大原一興・藤岡泰寛  | 4. 巻<br>E-1分冊         |
| 2. 論文標題<br>建築物保存からみたエコミュージアム活動の可能性に関する考察 三浦半島における活動の行政と市民の連携に着目して | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集   | 6. 最初と最後の頁<br>197-198 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                    | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                            | 国際共著<br>-             |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>田上夏伊・大原一興・藤岡泰寛                      | 4. 巻<br>E-1分冊           |
| 2. 論文標題<br>居住文化を保全継承するための住宅とミュージアムの統合事例に関する考察 | 5. 発行年<br>2021年         |
| 3. 雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集                     | 6. 最初と最後の頁<br>585 - 586 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                | 査読の有無<br>無              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難        | 国際共著<br>-               |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>五嶋薫子・藤岡泰寛・大原一興                               | 4. 巻<br>F-2分冊        |
| 2. 論文標題<br>旧駅舎建築の世代継承に関する研究 長期にわたる一時解体を経験した旧国立駅舎を事例として | 5. 発行年<br>2021年      |
| 3. 雑誌名<br>日本建築学会大会学術講演梗概集                              | 6. 最初と最後の頁<br>9 - 10 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                         | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                 | 国際共著<br>-            |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>佐藤翔                                      | 4. 巻<br>27            |
| 2. 論文標題<br>来館者数が、減っている：日本の公共図書館の3分の2は過去10年で来館者数が減少 | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>ライブラリー・リソース・ガイド (LRG)                    | 6. 最初と最後の頁<br>140-146 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                     | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難             | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>佐藤翔   | 4. 巻<br>28            |
| 2. 論文標題<br>書架番号、必要ですか？ VRを使って実験してみた（かたつむりは電子図書館の夢をみるかLRG編 第11回） | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>ライブラリー・リソース・ガイド (LRG)                                 | 6. 最初と最後の頁<br>132-139 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                  | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                          | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>佐藤翔   | 4. 巻<br>30            |
| 2. 論文標題<br>天候と図書館の貸出冊数の関係 大都市圏の人々は晴れの日に畑を耕さないばかりか、雨の日には図書館にも来ない（かたつむりは電子図書館の夢をみるかLRG編 第13回） | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>ライブラリー・リソース・ガイド (LRG)   | 6. 最初と最後の頁<br>140-147 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>佐藤翔   | 4. 巻<br>31            |
| 2. 論文標題<br>図書館で新規利用登録するのはどんなタイミング？ そのまま利用者は定着するの？ 定着する人とならない人の違いは？ 調べてみました！（かたつむりは電子図書館の夢をみるかLRG編 第14回） | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>ライブラリー・リソース・ガイド (LRG)   | 6. 最初と最後の頁<br>127-134 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>佐藤翔   | 4. 巻<br>32            |
| 2. 論文標題<br>”あなた”はなぜ、図書館に行くのか？ 図書館利用の決定要因を探る壮大な研究（・・・の、数歩目くらいの話）（かたつむりは電子図書館の夢をみるかLRG編 第15回） | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>ライブラリー・リソース・ガイド（LRG）  | 6. 最初と最後の頁<br>144-152 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>佐藤翔  | 4. 巻<br>37            |
| 2. 論文標題<br>自分の支払った税金のうち、一年にいくらまでなら公共図書館に使われてもよい？：NDL情報行動調査、追加設問について（かたつむりは電子図書館の夢を見るか LRG編 第20回） | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>ライブラリー・リソース・ガイド（LRG）   | 6. 最初と最後の頁<br>143-153 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Sho Sato, Takashi Harada, Saki Itagaki, Asuka Suehiro, Tomoka Takamura, Koji Yamashita, Ryuta Ichikawa, Katsuhiko Sukoboshi | 4. 巻<br>56(1)         |
| 2. 論文標題<br>Library shelf signs affect users' search time length: Evidence from an experiment using a VR library system                | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>Proceedings of the Annual Meeting of the Association for Information Science and Technology                                 | 6. 最初と最後の頁<br>752-754 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Sho Sato, Takashi Harada, Tomoya Igarashi, Masanori Koizumi, Kanako Tatebe, Yui Izumi, Ayano Suemichi, Momoka Inaba | 4. 巻<br>-             |
| 2. 論文標題<br>The Effect of Weather and the Days of the Week on the Number of Daily Circulations in Public Libraries             | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>Proceedings of the 9th Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice(A-LIEP 2019)         | 6. 最初と最後の頁<br>390-396 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐藤翔, 伊藤弘道                    | 4. 巻<br>66(2)       |
| 2. 論文標題<br>図書の本架上の位置が利用者の注視時間に与える影響    | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>日本図書館情報学会誌                   | 6. 最初と最後の頁<br>55-68 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Sho Sato, Yukari Eto, Kotomi Iwaki, Tadashi Oyanagi, Yu Yasuma | 4. 巻<br>41            |
| 2. 論文標題<br>Impact of bookshelf locations using eye-tracking methodology  | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>Library Management   | 6. 最初と最後の頁<br>617-629 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                   | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Sho Sato, Takashi Harada, Kanako Tatebe, Yui Izumi, Ayano Suemichi, Momoka Inaba, Tomoya Igarashi, Masanori Koizumi | 4. 巻<br>31(1)       |
| 2. 論文標題<br>Effect of weather and days of the week on number of daily circulation in public libraries                          | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>Library and Information Science Research E-Journal  | 6. 最初と最後の頁<br>56-65 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)   | 国際共著<br>-           |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                                  | 4. 巻<br>17(2)     |
| 2. 論文標題<br>コロナ禍で博物館の受けた影響、見えてきた価値                | 5. 発行年<br>2020年   |
| 3. 雑誌名<br>文化経済学                                  | 6. 最初と最後の頁<br>1-4 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.11195/jace.17.2_1 | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)            | 国際共著<br>-         |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                               | 4. 巻<br>-             |
| 2. 論文標題<br>多様なミュージアムプロフェッショナル育成のために           | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>日本の博物館のこれからII -博物館の在り方と博物館法を考える-    | 6. 最初と最後の頁<br>125-130 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.20643/00001492 | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)         | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                               | 4. 巻<br>-             |
| 2. 論文標題<br>博物館の基盤となる学芸員体制の維持と高度化を考える          | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>日本の博物館のこれからII 博物館の在り方と博物館法を考える      | 6. 最初と最後の頁<br>117-124 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.20643/00001491 | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)         | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔  | 4. 巻<br>-           |
| 2. 論文標題<br>博物館施設群を全体として強化するために 登録制度によるスタンダード設定とネットワークによる機能強化 | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>日本の博物館のこれからII 博物館の在り方と博物館法を考える                     | 6. 最初と最後の頁<br>39-47 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.20643/00001484                | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                        | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                         | 4. 巻<br>82          |
| 2. 論文標題<br>博物館とはなにか: 役割の拡大と硬直化している財源の矛盾 | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>ミュージアムデータ                     | 6. 最初と最後の頁<br>20-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-           |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                        | 4. 巻<br>65(11)    |
| 2. 論文標題<br>世界の中の博物館、社会の中の博物館           | 5. 発行年<br>2019年   |
| 3. 雑誌名<br>Nature Study                 | 6. 最初と最後の頁<br>2-4 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-         |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔   | 4. 巻<br>27          |
| 2. 論文標題<br>新しい博物館定義(MDPP)と自然史博物館の将来の機能 (博物館の社会的役割を考える : 持続可能性の視点から) | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>全国科学博物館協議会研究発表大会 : 資料                                     | 6. 最初と最後の頁<br>67-72 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                      | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                              | 国際共著<br>-           |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                                    | 4. 巻<br>50(2)     |
| 2. 論文標題<br>NATHIST は日本の科学系博物館に何をもたらしたか?自然史博物館の立場から | 5. 発行年<br>2020年   |
| 3. 雑誌名<br>全科協ニュース                                  | 6. 最初と最後の頁<br>3-5 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                     | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難             | 国際共著<br>-         |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                                 | 4. 巻<br>55(623)     |
| 2. 論文標題<br>博物館は持続可能性を社会にもたらすか? (ICOM京都大会2019特集) | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>博物館研究                                 | 6. 最初と最後の頁<br>27-30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                  | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難          | 国際共著<br>-           |



|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                         | 4. 巻<br>125     |
| 2. 論文標題<br>コロナ禍の中で、あえてこれからのミュージアムを考えてみる | 5. 発行年<br>2020年 |
| 3. 雑誌名<br>ミュゼ                           | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし          | 査読の有無<br>無      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-       |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔  | 4. 巻<br>90(9)         |
| 2. 論文標題<br>ICOMの指し示す自然史博物館の将来の機能 (特集 持続可能な社会を目指す 科学館・博物館の役割) | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>金属   | 6. 最初と最後の頁<br>704-705 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                               | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                       | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                        | 4. 巻<br>127         |
| 2. 論文標題<br>博物館地方独法は飛躍できるのか.            | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>ミュゼ                          | 6. 最初と最後の頁<br>12-14 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                        | 4. 巻<br>52(1)     |
| 2. 論文標題<br>博物館法をどう変えていきたいのか            | 5. 発行年<br>2022年   |
| 3. 雑誌名<br>全科協ニュース                      | 6. 最初と最後の頁<br>2-4 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-         |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                             | 4. 巻<br>128         |
| 2. 論文標題<br>変わっていく社会、博物館。「博物館法」は遠くから見ているだけか？ | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>ミュゼ                               | 6. 最初と最後の頁<br>26-27 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし              | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>谷合佳代子  | 4. 巻<br>3           |
| 2. 論文標題<br>エル・ライブラリーのアーカイブズ：収集から活用まで (特集 マイノリティ・アーカイブズの構築・研究・発信) | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>立命館生存学研究   | 6. 最初と最後の頁<br>53-67 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.34382/00012856                    | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                           | 国際共著<br>-           |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>谷合佳代子   | 4. 巻<br>74(8)         |
| 2. 論文標題<br>エル・ライブラリー(大阪産業労働資料館) 働く人々を支え、記録と記憶を未来へつなぐ (特集 専門図書館を利用する：図書館のちから(2)) | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>労働の科学   | 6. 最初と最後の頁<br>478-483 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>谷合佳代子                           | 4. 巻<br>849         |
| 2. 論文標題<br>歴史の眼 社会運動史料の宝庫：市民が支えるエル・ライブラリー | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>歴史評論                            | 6. 最初と最後の頁<br>55-61 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし            | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難    | 国際共著<br>-           |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>谷合佳代子                             | 4. 巻<br>22         |
| 2. 論文標題<br>アーキビスト座談会：アカデミックリソースとしてのアーカイブの現在 | 5. 発行年<br>2022年    |
| 3. 雑誌名<br>Intelligence インテリジェンス             | 6. 最初と最後の頁<br>4-31 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし               | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      | 国際共著<br>-          |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>瀧端真理子                         | 4. 巻<br>33          |
| 2. 論文標題<br>アメリカ合衆国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略(2) | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報               | 6. 最初と最後の頁<br>13-39 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし           | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-           |

|                                       |                    |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                       | 4. 巻<br>33         |
| 2. 論文標題<br>博物館が高齢化社会に対応するために必要な要件を考える | 5. 発行年<br>2019年    |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報             | 6. 最初と最後の頁<br>7-11 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-          |

|                                       |                   |
|---------------------------------------|-------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                       | 4. 巻<br>48(5)     |
| 2. 論文標題<br>ICOM 京都大会 2019に何を求めるのか     | 5. 発行年<br>2018年   |
| 3. 雑誌名<br>全科協ニュース                     | 6. 最初と最後の頁<br>8-9 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-         |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>瀧端真理子                         | 4. 巻<br>32          |
| 2. 論文標題<br>アメリカ合衆国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略(1) | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報               | 6. 最初と最後の頁<br>53-72 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)   | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>和田岳                           | 4. 巻<br>32          |
| 2. 論文標題<br>自然史博物館の賢者の間 : リタイアした研究者が集う場所 | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報               | 6. 最初と最後の頁<br>43-46 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)   | 国際共著<br>-           |

|                                       |                     |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐藤翔                         | 4. 巻<br>32          |
| 2. 論文標題<br>人は図書館と本棚をどう見ているのか?         | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報             | 6. 最初と最後の頁<br>47-52 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし        | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>平野泉                               | 4. 巻<br>32          |
| 2. 論文標題<br>「研究者アーカイブズ」を考える : 歩き、読み、書いた二人の事例 | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報                   | 6. 最初と最後の頁<br>27-36 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし              | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)       | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>谷谷佳代子                              | 4. 巻<br>32          |
| 2. 論文標題<br>研究の記録管理と資料保存 : 京都大学研究資源アーカイブの事例から | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>Musa 博物館学芸員課程年報                    | 6. 最初と最後の頁<br>37-41 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし               | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)       | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>佐藤翔                          | 4. 巻<br>27          |
| 2. 論文標題<br>クラスター分析による図書館利用者・非利用者のグループ化 | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>同志社図書館情報学                    | 6. 最初と最後の頁<br>59-94 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-           |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                                | 4. 巻<br>47(4)   |
| 2. 論文標題<br>地域の核として信頼されるために : 行動規範を館の活動に活かすポイント | 5. 発行年<br>2017年 |
| 3. 雑誌名<br>全科協ニュース                              | 6. 最初と最後の頁<br>9 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                 | 査読の有無<br>無      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)         | 国際共著<br>-       |

|   |                   |
|---|-------------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔                               | 4. 巻<br>47(5)     |
| 2. 論文標題<br>安定した博物館運営のための基盤を維持するために 対話と連携の残る課題 | 5. 発行年<br>2017年   |
| 3. 雑誌名<br>全科協ニュース                             | 6. 最初と最後の頁<br>8-9 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)        | 国際共著<br>-         |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Daisuke SAKUMA  | 4. 巻<br>36            |
| 2. 論文標題<br>How should we prepare for the next disaster? The present situation of Japanese biodiversity heritage | 5. 発行年<br>2017年       |
| 3. 雑誌名<br>Biology-International Special Issue   | 6. 最初と最後の頁<br>133-139 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計43件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 9件)

|                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子                    |
| 2. 発表標題<br>求人情報から見る米国ミュージアムの寄附金獲得戦略 |
| 3. 学会等名<br>全日本博物館学会第49回研究大会         |
| 4. 発表年<br>2023年                     |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子                     |
| 2. 発表標題<br>日本の博物館行政はどこへ向かうのか？        |
| 3. 学会等名<br>2022年度日本社会教育学会六月集会 (招待講演) |
| 4. 発表年<br>2022年                      |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子  |
| 2. 発表標題<br>英国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略 - アシュモレアン博物館、ナショナル・ギャラリー、ダリッチ・ピクチャー・ギャラリーを事例として - |
| 3. 学会等名<br>全日本博物館学会第48回研究大会   |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子                                  |
| 2. 発表標題<br>COVID-19期の博物館経営 英米ミュージアムの年次報告書を手がかりとして |
| 3. 学会等名<br>日本社会教育学会第69回研究大会                       |
| 4. 発表年<br>2022年                                   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>中野詩                                   |
| 2. 発表標題<br>社会的処方とアート活動 - イギリス北東部でのフィールドワークを通して - |
| 3. 学会等名<br>第9回チア！ゼミ（招待講演）                        |
| 4. 発表年<br>2021年                                  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>中野詩                                     |
| 2. 発表標題<br>アートとヘルスの出会い、その先へ - イギリス、日本、社会的処方        |
| 3. 学会等名<br>SPTラボラトリーゼミ『アートとヘルス～イギリス、アメリカ、そして日本では～』 |
| 4. 発表年<br>2023年                                    |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>佐久間大輔                         |
| 2. 発表標題<br>展示は人の為ならず 博物館はスタンドアロンでは機能できない |
| 3. 学会等名<br>日本博物館協会 第70回全国博物館大会（高知）（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2022年                          |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>佐久間 大輔・石井 陽子                     |
| 2. 発表標題<br>誰を包摂するのか～博物館が想定する未利用者・非利用者と活動戦略～ |
| 3. 学会等名<br>全国科学博物館協議会第30回研究発表大会             |
| 4. 発表年<br>2023年                             |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>佐久間大輔  |
| 2. 発表標題<br>社会の中で博物館が 機能発揮するためのしかけ 博物館とネットワーク                          |
| 3. 学会等名<br>公益財団法人日本博物館協会フォーラム「改正博物館法施行間近！ ～現場の視点で改正法のポイントを考える～」(招待講演) |
| 4. 発表年<br>2023年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>佐久間大輔                        |
| 2. 発表標題<br>大阪市立自然史博物館がミッションにこだわる理由      |
| 3. 学会等名<br>全国美術館会議 教育普及研究部会第59回会合(招待講演) |
| 4. 発表年<br>2023年                         |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>谷合佳代子                                      |
| 2. 発表標題<br>アーカイブズ記述アプリケーション「AtoM」導入の過程：エル・ライブラリーの事例から |
| 3. 学会等名<br>日本図書館研究会 情報組織化研究グループ月例研究会                  |
| 4. 発表年<br>2023年                                       |



|                                |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子               |
| 2. 発表標題<br>寄附の観点から考える博物館への市民参加 |
| 3. 学会等名<br>日本社会教育学会第66回研究大会    |
| 4. 発表年<br>2019年                |

|                                    |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子                   |
| 2. 発表標題<br>英国における博物館入館料無料の起源に関する探求 |
| 3. 学会等名<br>日本社会教育学会第67回研究大会        |
| 4. 発表年<br>2020年                    |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子   |
| 2. 発表標題<br>アメリカ合衆国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略－ミルウォーキー所在6館園を事例として－ |
| 3. 学会等名<br>全日本博物館学会 第46回研究大会                             |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子                                      |
| 2. 発表標題<br>英国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略－V&A及びロンドン動物学協会を事例として－ |
| 3. 学会等名<br>全日本博物館学会 第47回研究大会                          |
| 4. 発表年<br>2021年                                       |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子                                |
| 2. 発表標題<br>英国の博物館入館料に関する探究－コレクション形成とチャリティの観点から－ |
| 3. 学会等名<br>日本社会教育学会第68回研究大会                     |
| 4. 発表年<br>2021年                                 |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子  |
| 2. 発表標題<br>英国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略 - アシュモレアン博物館、ナショナル・ギャラリー、ダリッチ・ピクチャー・ギャラリーを事例として - |
| 3. 学会等名<br>全日本博物館学会 第48回研究大会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Mariko Takibata   |
| 2. 発表標題<br>Exhibiting the Northern Osaka Earthquake and COVID-19 Experiences |
| 3. 学会等名<br>ICOM Prague 2022 / ICTOP (国際学会)                                   |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kazuoki Ohara  |
| 2. 発表標題<br>Creating Sustainable Community and Heritage through Ecomuseum: Trial Discussion on Strengthening, Local People's Attachment and Social Capital through Museological Actions in Community |
| 3. 学会等名<br>Eleventh International Conference on the Inclusive Museum "Museums, Heritage & Sustainable Tourism" (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>大原一興                                  |
| 2. 発表標題<br>エコミュージアムに関する国際会議等における議論の経緯 40年間を振り返って |
| 3. 学会等名<br>日本エコミュージアム研究会研究大会                     |
| 4. 発表年<br>2020年                                  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>佐久間大輔                                      |
| 2. 発表標題<br>新規事業と科学コミュニケーションにおける博物館周辺の市民コミュニティの重要性について |
| 3. 学会等名<br>国際博物館会議 2019京都大会（国際学会）                     |
| 4. 発表年<br>2019年                                       |

|                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>佐久間大輔                  |
| 2. 発表標題<br>菌学における市民科学と地域自然史博物館の役割 |
| 3. 学会等名<br>アジア菌学会2019             |
| 4. 発表年<br>2019年                   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>佐久間大輔                          |
| 2. 発表標題<br>博物館の現状の課題はなにか、博物館法のどこを変えるべきなのか |
| 3. 学会等名<br>全日本博物館学会 第 47 回研究大会            |
| 4. 発表年<br>2021年                           |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Daisuke SAKUMA  |
| 2. 発表標題<br>Changes of SR01 of natural history museums by Digitalization of activities under COVID-19 - case of Osaka Museum of Natural History - |
| 3. 学会等名<br>ICOM NATHIST VIRTUAL CONFERENCE 2021 (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>佐久間大輔                                   |
| 2. 発表標題<br>文化審議会博物館部会 WG における博物館法改正の議論と自然科学系博物館の今後 |
| 3. 学会等名<br>令和3年度第2回全国科学博物館協議会総会(招待講演)              |
| 4. 発表年<br>2022年                                    |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>佐久間大輔  |
| 2. 発表標題<br>[P2-368]自然史系博物館を活用するために 博物館法改正で生態学コミュニケーションは広がるか |
| 3. 学会等名<br>第69回日本生態学会大会                                     |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kayoko TANIAI, Yayoi TSUTSUI, Tanya MAUS |
| 2. 発表標題<br>小規模MLA機関のドキュメンテーションと運営                   |
| 3. 学会等名<br>ICOM-CIDOC 2019 Kyoto (国際学会)             |
| 4. 発表年<br>2019年                                     |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子                         |
| 2. 発表標題<br>アメリカ合衆国のミュージアムにおける教育普及活動の料金設定 |
| 3. 学会等名<br>日本社会教育学会第65回研究大会              |
| 4. 発表年<br>2018年                          |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子   |
| 2. 発表標題<br>アメリカ合衆国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略(2) - 寄附者グループとブランド・ギビングに着目して - |
| 3. 学会等名<br>全日本博物館学会第45回研究大会  |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Mariko Takibata   |
| 2. 発表標題<br>The History and Challenge of Citizens' Participation at Osaka Museum of Natural History |
| 3. 学会等名<br>ICOM-NATHIST 2019 Kyoto (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Mariko Takibata  |
| 2. 発表標題<br>The locally significant approach needs a globally standardized practice - In order to overcome the weakness of Japanese museum professionals |
| 3. 学会等名<br>ICOM-ICTOP 2019 Kyoto (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>佐久間 大輔   |
| 2. 発表標題<br>自然史資料を世界の共有財産として保全するために ICOM-NATHISTの要求する管理者への保全努力と社会との ” engagement ” の追求 |
| 3. 学会等名<br>全国科学博物館協議会第26回研究発表大会   |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Ikue Masuda , Kazuoki Ohara   |
| 2. 発表標題<br>Study on museum fatigue and the utilization of sitting space in museums of fine art |
| 3. 学会等名<br>ICOM- ICAMT 2019 Kyoto ( 国際学会 )   |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子                                      |
| 2. 発表標題<br>アメリカ合衆国のミュージアムにおける寄附金獲得戦略 –シカゴ所在4館園を事例として– |
| 3. 学会等名<br>全日本博物館第44回研究大会                             |
| 4. 発表年<br>2018年                                       |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子                      |
| 2. 発表標題<br>ニューヨークと隣接地域のミュージアム入館料と優遇制度 |
| 3. 学会等名<br>全日本博物館第43回研究大会             |
| 4. 発表年<br>2017年                       |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>瀧端真理子                 |
| 2. 発表標題<br>英国における高齢者対応博物館教育活動の展開 |
| 3. 学会等名<br>日本社会教育学会第64回研究大会      |
| 4. 発表年<br>2017年                  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>佐藤翔, 池本実緒, 小池敬大, 松原早菜, 山中飛鳥, 河田姫碧, 宮崎直子, 永野ゆりえ, 永尾梨乃 |
| 2. 発表標題<br>公共図書館内における利用者の注視行動の傾向と図書館デザインの影響                     |
| 3. 学会等名<br>日本図書館情報学会2018年度春季研究集会                                |
| 4. 発表年<br>2018年   |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>佐久間大輔                 |
| 2. 発表標題<br>市民と博物館の関わりから見る「対話と連携」 |
| 3. 学会等名<br>全日本博物館第43回研究大会        |
| 4. 発表年<br>2017年                  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>DAISUKE SAKUMA   |
| 2. 発表標題<br>The Role of Local Natural History Museums for Developing Biodiversity Conservation Strategies. |
| 3. 学会等名<br>ICOM NATHIST (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2017年   |

|                                |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名<br>谷合佳代子               |
| 2. 発表標題<br>労働史オーラルヒストリー・プロジェクト |
| 3. 学会等名<br>デジタルアーカイブ学会第2回研究大会  |
| 4. 発表年<br>2018年                |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>高橋 絵里、大原 一興他 3 名          |
| 2. 発表標題<br>地域資源に対する住民評価による展示テーマ抽出の試み |
| 3. 学会等名<br>日本建築学会大会                  |
| 4. 発表年<br>2017年                      |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>我妻 祐一郎、大原 一興他 3 名         |
| 2. 発表標題<br>三浦半島まるごと博物館における専門家と市民の関わり |
| 3. 学会等名<br>日本建築学会大会                  |
| 4. 発表年<br>2017年                      |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>山本 奈生、大原 一興他 4 名             |
| 2. 発表標題<br>出作り文化の伝承におけるエコミュージアム活動の役割の考察 |
| 3. 学会等名<br>日本建築学会大会                     |
| 4. 発表年<br>2017年                         |



〔図書〕 計11件

|                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔 (分担執筆) | 4. 発行年<br>2023年 |
| 2. 出版社<br>放送大学教育振興会    | 5. 総ページ数<br>332 |
| 3. 書名<br>博物館経営論〔改訂新版〕  |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>大原 一興・大野 敏                   | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院        | 5. 総ページ数<br>134 |
| 3. 書名<br>金山町(山形県最上郡)における「域学連携」事業への取り組み |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>大原一興(分担執筆)                     | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>彰国社                            | 5. 総ページ数<br>120 |
| 3. 書名<br>福祉施設的设计 障害者・子ども・高齢者 地域との共生を目指して |                 |

|                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1. 著者名<br>大原一興(分担執筆) | 4. 発行年<br>2021年  |
| 2. 出版社<br>春風社        | 5. 総ページ数<br>1052 |
| 3. 書名<br>都市科学事典      |                  |

|                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>小川義和、五月女賢司、佐久間大輔   | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>ジダイ社               | 5. 総ページ数<br>353 |
| 3. 書名<br>発信する博物館：持続可能な社会に向けて |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>今村信隆、佐々木 亨、緒方泉、吉田公子、中込潤、田中梨枝子、大原昌宏、佐久間大輔、北村淳一、関口千代絵、卓彦伶、菊地雅子、山田のぞみ、吉里演子、沼田絵美、立石絵梨子、樋泉綾子、小篠隆生 | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>水曜社  | 5. 総ページ数<br>304 |
| 3. 書名<br>学芸員がミュージアムを変える！公共文化施設の地域力   |                 |

|                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔(分担執筆) | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>中央公論美術出版    | 5. 総ページ数<br>184 |
| 3. 書名<br>博物館の未来を考える   |                 |

|                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>谷合佳代子(分担執筆)      | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>昭和堂              | 5. 総ページ数<br>412 |
| 3. 書名<br>大学的大阪ガイド　こだわりの歩き方 |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>佐久間大輔 (分担執筆)  | 4. 発行年<br>2017年 |
| 2. 出版社<br>神奈川県立生命の星・地球博物館友の会                                      | 5. 総ページ数<br>180 |
| 3. 書名<br>『博物館の当事者は誰か カルチャーをつなぐために』 『友の会で語る博物館の楽しみ方 博物館友の会20周年記念誌』 |                 |

|                                  |                 |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>大原一興 (分担執筆)            | 4. 発行年<br>2018年 |
| 2. 出版社<br>彰国社                    | 5. 総ページ数<br>152 |
| 3. 書名<br>北欧流「ふつう」暮らしからよみとく環境デザイン |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Kazuoki Ohara (分担執筆)  | 4. 発行年<br>2018年 |
| 2. 出版社<br>Maggioli Editore  | 5. 総ページ数<br>400 |
| 3. 書名<br>Ecomuseums and cultural landscapes State of the art and future prospects |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

|   |
|---|
| <p>AAM 2017 参戦記 (佐久間大輔)<br/> <a href="https://togetter.com/li/1110029">https://togetter.com/li/1110029</a><br/>         NATHIST2017年次総会参戦記 (佐久間大輔)<br/> <a href="https://togetter.com/li/1193208">https://togetter.com/li/1193208</a><br/>         「アートとヘルス-イギリス、アメリカ、そして日本では-」SPTラボラトリーゼミ (中野詩)<br/> <a href="https://setagaya-pt.jp/bf2022/workshop_lecture/sptlab202303.html">https://setagaya-pt.jp/bf2022/workshop_lecture/sptlab202303.html</a></p> |
|---|

## 6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                      | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)  | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 大原 一興<br><br>(OHARA Kazuoki)<br><br>(10194268) | 横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・教授<br><br><br><br>(12701)   |    |
| 研究分担者 | 和田 岳<br><br>(WADA Takeshi)<br><br>(60270724)   | 地方独立行政法人大阪市博物館機構（大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪・大阪市立自然史博物館・主任学芸員<br><br><br><br>(84433) |    |
| 研究分担者 | 佐藤 翔<br><br>(SATO Sho)<br><br>(90707168)       | 同志社大学・免許資格課程センター・准教授<br><br><br><br>(34310)  |    |

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                        | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)   | 備考        |
|-------|--|---|-----------|
| 研究協力者 | 佐久間 大輔<br><br>(SAKUMA Daisuke)<br><br>(90291179) | 地方独立行政法人大阪市博物館機構（大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪・大阪市立自然史博物館・課長<br><br><br><br>(84433) |           |
| 研究協力者 | 谷合 佳代子<br><br>(TANIAI Kayoko)<br><br>(40915675)  | 大阪公立大学・人権問題研究センター・特別研究員<br><br><br><br>(24405)  |           |
| 研究協力者 | 平野 泉<br><br>(HIRANO Izumi)                       | 立教大学・共生社会研究センター・アーキビスト  |           |
| 研究協力者 | 中野 詩<br><br>(NAKANO Uta)                         | 独立行政法人国立美術館・国立アートリサーチセンター・ラーニンググループ研究補佐員  | 美術待合室（主宰） |

6. 研究組織（つづき）

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)             | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)   | 備考 |
|-------|---------------------------------------|---|----|
| 研究協力者 | 小南 理恵<br>(KOMINAMI Rie)<br>(90895319) | 鶴見大学・文学部・講師<br><br>(32710)  |    |
| 研究協力者 | 西川 開<br>(NISHIKAWA Kai)               | 文部科学省科学技術・学術政策研究所・科学技術予測・政策<br>基盤調査研究センター・研究員<br><br>(82624)                            |    |
| 研究協力者 | 石田 惣<br>(ISHIDA So)<br>(50435880)     | 地方独立行政法人大阪市博物館機構（大阪市立美術館、大阪<br>市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪・大阪市<br>立自然史博物館・係長<br><br>(84433) |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|         |         |